

教育委員会 3 月定例会 会議録

- 1 開催日時 令和 7 年 2 月 21 日 (金) 午後 3 時45分から午後 4 時15分まで
- 2 場 所 教育委員会室
- 3 出席委員 教 育 長 丸 山 陽 一
同職務代理者 近 藤 守
委 員 山 口 美 和
委 員 田 中 亜希子
- 4 説明のために会議に出席した者
教 育 次 長 前 島 卓
教 育 次 長 唐 木 英 俊
教育次長副任兼
総 務 課 長 北 島 克 彦
学校教育課長 佐久間 清 也
保健給食課長 山 口 恭 司
家庭・地域学びの課長 藤 原 慶 治
学 校 支 援 官 酒 井 好 和
総務課長補佐 穂 川 さゆり
- 5 書 記 総 務 課
庶務担当係長 児 島 真 季

丸山教育長が開会を宣した。

<教育長あいさつ>

皆様も御承知のとおり、現在、国会では令和7年度の予算案の修正をめぐって与野党の調整が大詰めとなっており、高校の授業料無償化の拡大について、私立も含め行っているところである。その中で我々として注目すべき点は、給食費の無償化である。これについては、まず小学校を念頭に2026年度以降、できるだけ早期の制度化を目指すとされた。本日の協議事項にもあるが、長野市では、給食費の増額改定を行っているが、審議会の答申に基づき保護者の負担軽減ということで、増額分については公費対応をしているところである。今後、給食費の無償化について、国の動向を注視していきたい。

2月5日に、長野上水内中学校生徒会サミットがWebで開催された。20回目を迎えた今年の生徒会サミットには、長野市立の全23校、上水内郡の全3校、信州大学附属長野中学校の計27校が参加し、生徒会役員合計81人が、それぞれのテーマごとにグループディスカッションを行った。現2年生の役員の皆さんが出席したが、非常に活発にディスカッションを行っており、頼もしさを感じた。

2月18日の火曜日には、3回目となる信州ブレイブウォリアーズのキッズドリームデーがあり、市内小・中学生5,000人が観戦し、選手に熱い声援を送った。子どもたちにとって、プロのプレイヤーの技術や会場の雰囲気を感じられる貴重な機会となったのではないかと思う。

3月は卒業シーズンとなるが、松代の清野小学校が今年度末をもって138年の歴史に幕を閉じることとなった。来月18日に閉校式を執り行う予定である。22人の児童たちは、これまで先生方や地域の皆様とともにたくさんの思い出をつくられたことと思う。新年度からは、新たな学びの場として松代小学校へ通学することとなるが、子どもたちが一日も早く学校になじむことができるよう、教育委員会としても、学校とともに支援をしてみたい。

3月27日には、今年度で10回目となる子ども議会が開催される。子どもたちの意見・提案については、可能な限り今後の施策に反映できるよう、各部局にもお願いしていきたい。

本日は令和6年度最後の定例会となる。今週火曜日には来年度の予算が公表され、来週26日水曜日から、3月市議会定例会も始まる。教育委員会の予算案の御審議をいただくので、丁寧に説明をしていきたい。令和6年度はSaSaLANDの開所から始まり、新たな挑戦であったが、非常に多くの皆様の御協力のもと、校内外の教育支援センターにおける児童・生徒の支援体制について一定程度強化ができたものと思っている。新年度についても、学校教育・社会教育の現場において、児童・生徒あるいは市民の皆様へ成長と学びの場を提供し、より良い環境で学び続けられるための取組を進めてまいりたいと考えているので、委員の皆様には引き続き、御支援・御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

<協議事項>

協議1号「長野市立学校職員の期末手当及び勤勉手当の支給に関する規則の一部改正について」

報告2号「長野市立学校職員の給与に関する条例の一部改正について」

これら二つについて関連のある事柄であるため、丸山教育長が合わせて事務局に説明を求めた。

佐久間学校教育課長が説明した。

報告2号「長野市立学校職員の給与に関する条例の一部改正について」

・今月27日までの間に公布予定

協議 1 号「長野市立学校職員の期末手当及び勤勉手当の支給に関する規則の一部改正について」

- ・勤勉手当に係る成績率の範囲については、県の方針に準じて設定しているもの

委員 やっと上げていただいてありがたいが、これで追い付くのか。

佐久間学校教育課長

国には若干まだ追い付いていない。

丸山教育長

成績率とはどういったものか。

北島教育次長副任兼総務課長

成績率は業績評価によって定めている。その評価には幾つかの区分があり、今回は、その最高となる成績率の範囲を改正し引き上げたものである。

丸山教育長

つまり、人によって異なるということか。

北島教育次長副任兼総務課長

そのとおりである。

委員 何段階に分かれているのか。

佐久間学校教育課長

教員の場合は 3 段階である。

丸山教育長が諮ったところ、原案のとおり承認された。

協議 2 号「令和 7 年度の学校給食費について」

丸山教育長が事務局に説明を求めた。

山口保健給食課長が説明した。

- ・本日、1 月の消費者物価指数が公表され、127.4 で対前年同月比 7.8% 増となっている。
- ・令和 7 年度の主食の供給価格について、小麦は令和 6 年度と同額になる。

委員 野菜の高騰が目も当てられないほどで、米も 5 キログラムで 1,000 円以上値上がり、学校給食会で安い米をできるだけ確保してもらってはいるが、その米も十分に確保できない状況にある。今後さらに価格競争があおられてくると、対応できるのか心配である。今回はこれで間に合うかもしれないが、今後の予測が難しい。また、保護者には、学校給食費は食材費だということを、もう少し PR していった方が良い。

山口保健給食課長

4 月に向けては、そうした PR もしっかり行っていきたい。毎年行ってはいるが、なかなか御理解いただけていない部分もあるかもしれないという話も聞いているので、さらにチラシやパンフレットなど、良いものを作れるようにしていきたい。

丸山教育長

米 10 キログラム 4,000 円は安い。市中のスーパーでは 2 倍はする。学校給食会での米のストックはどのくらいあるのか。

山口保健給食課長

令和7年4月から1年度分である。今年度も米の価格がどんどん上昇してきているが、4月以降ずっと同じ金額で提供してもらっている。

丸山教育長

国の放出があるので、どうなっていくか。いずれにしても様々なものが上がってくるのは事実だと思う。今はこれで良くて、今後は分からない。

委員 給食の品数は以前に比べて少なくなっているのではないかと。栄養士さんは大変苦労されていることと思う。

山口保健給食課長

特にキャベツや白菜が高く、それらを少し減らし、代わりに汁物は玉ネギやニンジン、あえ物はもやしを増やすなどしている。とは言え、栄養バランスはあまり変えられないので、その加減が難しいという話を聴いている。日々、栄養教諭が苦心しながら献立作りをしてくださっている。

委員 現在は国の政策もあり、米飯が中心となっているが、パン食をもう少し増やしても良いのではないかと。

委員 牛乳を減らすことはできないのか。牛乳のカルシウム濃度は高いが、学校給食ではしっかりだしをとっているのだから、煮干しからとれる良質なカルシウムがあるのであれば、カルシウム計算に牛乳を加えなくてもよいのではないかと思う部分もある。また、日本人の腸と牛乳の関係があまり良くなく、お腹を下してしまう子もいる。そもそも、ご飯・みそ汁・おかずに牛乳という組み合わせに違和感がある。牛乳も高騰しているのだから、絶対に必要ということではなければ、牛乳を減らす選択肢もあるのではないかと。

山口保健給食課長

運営審議会でも同様の御意見をいただくことがある。それに対し、栄養教諭から話を聴くと、やはり牛乳はカルシウム量が多く、カルシウムを吸収しやすくするものも含まれており、効率よくカルシウムをとれる食材は他にあまりないことと、学校給食の栄養基準を見ても、カルシウム以外は大体3分の1だが、カルシウムは50%と、多めに求められていることから、牛乳に頼らざるを得ない部分もあるとのことであった。ただ、こうした御意見は今後も大切に受け止めていきたい。

委員 様々な説があり、何が正しいかは分からないが、カルシウム濃度だけが高くても、カルシウムとマグネシウムが2対1でないと骨には吸収されないという説もある。

委員 カルシウムを吸収するというビタミンDを含む食物は干しいたけなどであるが、あまり使われていない。

委員 ビタミンDであれば、子どもたちが外で遊んだりすれば日光からも補給できる。

丸山教育長

公費負担については、3月市議会での議決案件となっているので、丁寧に説明してまいりたい。

丸山教育長が諮ったところ、原案のとおり承認された。

<一般行政報告>

報告1号「令和6年度教育費補正予算について」

丸山教育長が事務局に説明を求めた。

前島教育次長が説明した。

- ・報告2号は2月4日に開催された市議会臨時会で決定いただいたもので、これに伴った教育委員会所管の関係補正予算として報告するもの

報告3号『しなのきプランⅡ』（R6→R7ブラッシュアップ版）について」

丸山教育長が事務局に説明を求めた。

唐木教育次長が説明した。

委員 幼保小の接続について、私立幼稚園の先生方から、小学校となかなか接続の機会が持てず、今、架け橋期のカリキュラムを作るなど国が動き始めているのに、どこからつながっていったらよいか分からない、幼稚園の方から話をしても、校長会が動かないとなかなか難しい、という話を聞いた。せつかくやる気になっている先生方がいるので、そういったことも踏まえて、教育委員会としても何かアクションやつながりをつくる機会をつくっていただくことを要望する。今までもやっていたらいいかと思うが、おそらく接続期カリキュラムは、小学校は小学校、幼稚園は幼稚園、保育園は保育園で作っているかと思う。今後はそこを話し合いながら一緒に作っていくことが必要。結構大変なことで、新潟県でもやっているが、なかなか進まないのが現状である。少しずつそういった地盤をつくっていただけるとよいかと思う。

唐木教育次長

自校に入学する割合が多いことから、近隣の保育園とは連携が進むことがある。私立幼稚園の場合、在地と入学先がそれぞれであることから難しさがあるのだと思うが、そういった先生方のお気持ちはどこかでつなげないといけないと思う。御助言をいただきながら、校長会などにもつなげていけたらと思う。

委員 中身はとても良いが、難しく、やるのは学校であるが、保護者や一般家庭にどうやって御理解いただくのか。なぜ非認知能力を育てなければいけないのか、大事なのか。先ほどの接続期の問題もそうだが、これだけ不登校が増えてきている中で、学校って楽しいよね、ということを見つけて合おうという雰囲気にしていきたいという願いがあると思う。点数や先生の言うことを聞くだけが良いという判断だけでなく、その子がその子らしく、集団の中でお互い楽しく生きていけるということを考えているという解釈が、長野市から広がっていくとよい。方法論は沢山あると思うが、評価をし過ぎると評価のためのものになってしまうので、どう分かりやすくするかという難しさはある。

唐木教育次長

心の成長ややる気など支えるものが大事だが、あえて数値化もすることで問題提起をしようとしているが、確かに難しさもある。御意見いただいたとおり、やはりその子の良さ、良い所に目を付けていくことは伝えていきたい。まずは先生方に理解してもらうことを大事にし、更には保護者の方にも御理解いただけるよう、引き続き工夫していきたい。

委員 保護者の立場からすると、子が大人になったときの世の中がどうなっているか考えると、既存の教育だと働けないのではないかという不安がある。言われたことをやるということに慣れてしまうと、小学校1・2年生の脳が発達するような時期に、言われたことをやればよいという思考になってしまうのはもったいない。今は高校や大学でも探究学習は普通になってきていると思うが、急にその世代から探究するよう言われてもなかなか難しい、小さい頃からやったほうがよいと聞

いたことがある。幼稚園などではその子の特性を生かして探究的なこともされている気がするが、小学校に入った途端、先生の話をお聞きながら勉強するという姿勢に変わってしまう。その部分をもう少し自由に、探究的な学びを加えていきつつ、映画「小学校～それは小さな社会～」にもあるように、日本なりの良さ（時間を守る、皆で協力するなど）を残しながら、その子の個性を伸ばせる教育になっていくととても良いと思う。

委員 映画は、山崎エマ監督が世田谷区の小学校で撮られたもの。日本は、全体の中の個人という点では非常に優秀であるが、一方、フィンランドではまず個人から入っていくというところの違いが話題になっているように思う。学習指導要領も大事だが、小学校の低学年から、子どもたちの伸びるものをどう伸ばすかというように変えていかなければならない。それを見いだすのは難しく、また先生の個性によって偏ってしまうこともあるので怖い部分もある。「1年生になったら」の歌詞にもあるように、まずは友だちをつくることから始まるのであり、席に着いていることではないのだと、教員も含めて社会がそう見られるようになっていかなければならない。

報告4号「長野市の学校における働き方改革推進のための基本方針」（令和7年4月改定版）について」

丸山教育長が事務局に説明を求めた。

唐木教育次長が説明した。

- ・平成31年4月の策定時には、時間の削減や業務の分担など仕事の量に重きを置かれていたが、新たに働きがいなども出てきたことから、来年度の4月から改定という方向で、1年間（3回）の審議会を開催し検討したもの
- ・「6 具体的な取組」については例として挙げている。案ができたところで先生方にも見ていただき、いただいた御意見について反映できるものについては取り入れている。
- ・「概要版」は、自校の取組を話し合ったり、チェック・記入したりするなどして職員室等に貼り、シンボリックに使っていただけるよう考えたもの

委員 長野市では休職されている先生方はどのくらいいるのか。

唐木教育次長

休職後に復職される場合もあるので数え方としては難しい。回答にはならないが、一つの数字として、休職して欠員が埋まらない数は1月末で11人ほどであり、療休だけでなく、様々な事情での休職を含んでいる。

委員 休職されている間、誰が代わりとなるのか。

唐木教育次長

そこが、働き方改革の中で難しいところで、基本的には、講師の先生が見つければ代替として入ってもらっているが、現在は、なかなかいらない状況。その場合は、小学校は教頭先生や専科（音楽・家庭科）の先生、また学年の中で教科担任制をとっている学校は交代して入ってもらおうなど、各校で工夫していただいているところである。

委員 自治体と先生の派遣システム（Teach For JAPAN）があるかと思うが、使用予定はあるか。他の先生が負担すると、学校では〇時間以内勤務となっても、持ち帰って仕事されている先生も多くいる。ある程度の余裕がないと、気持ちよく子どもたちを見ることができなくなってしまうのではないかと。精神的な負担が増

えてくると大変だと思う。その辺りを緩和・サポートできる人たちを見つけることができればよい。

唐木教育次長

教員免許の問題が一つある。Teach For JAPANの取組も承知しているが、昨年度聞いた話では、5人足りないとなっても5人は送れないなど、全国的にもそういったケースがあるようである。南信地区の市町村で1人入れたという話も聞いているが、どのようになっているかよく見ていく必要がある。

委員 全国で取り合いになっていると聞く。

丸山教育長

教育委員会としてもいろいろとサポートしていかなければならない部分はある。今回の採点システムやDX関係については費用が掛かることでもあるので、できる限り推進していきたい。

報告5号「令和6年度成人祝賀事業の実施状況について」

丸山教育長が事務局に説明を求めた。

藤原家庭・地域学びの課長が説明した。

<その他>

○教育委員会の主催、共催及び後援事業について（北島教育次長副任兼総務課長）

主催事業0件、共催事業0件、後援事業11件（賞状交付0件）

○関東甲信越静教育委員会連合会総会について（北島教育次長副任兼総務課長）

- ・前回の長野大会は11年前、今回同様にホクト文化ホールで開催された。
- ・今年度は5月に茨城県古河市で行われたが、来年度は長野県市町村教育委員会研修総会も兼ねて5月30日に行うもの
- ・実行委員長は近藤職務代理であり、副実行委員長は、教育長、その他の教育委員の皆様と両教育次長である。

次回以降の日程確認（北島教育次長副任兼総務課長）

4月定例会 4月3日（木）午後3時 教育委員会室

5月定例会 5月7日（水）午後3時 教育委員会室

丸山教育長が閉会を宣した。

令和 年 月 日

会議録署名委員

教育長

同職務代理者

~~教育委員~~

教育委員

教育委員